

# さんらくえん通信

第4号

発行責任者:鈴木常元 編集責任者:田村匡彦 編集:下野三楽園編集委員会

県内児童福祉施設文化祭参加

『さんらくえんキッズ・和楽』発表

平成二十一年度栃木県児童福祉施設文化祭が、二月七日(日)矢板市文化会館で開催されました。県内の十一児童福祉施設から児童・職員合わせて約六百人が一堂に会し、楽しい一日を過ごしました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
児童文化祭は、作品や舞台演技を披露する年に一度の祭典です。

三楽園児も工作や絵画などを作り、演技は日光和楽踊りという盆踊りに挑戦しました。演技本番でも大勢の観客が見つめる中、練習の成果を出し切る良い発表ができました。

今年度は、三楽園が文化祭運営の当番施設で、児童・職員共に印象に残る一日になりました。

(近藤)



幼児も一緒に全員集合!! 「主役はボクたち、ワタンたち」



イヨッ! 待ってました。小粒でも太鼓はビシッと決めます。



私が児童文化祭で心に残った事は、三楽園から知事賞(金賞)が出た事と、和楽が成功した事です。知事賞は私ごとったわけではないけど、園から出た!というだけでも嬉しく思いました。(おめでとう。K・Sくん!)そして和楽では、少し失敗したけど、みんなで一つになれたので、楽しかったです。来年もぜひ参加したいです。

M・O 中2



【タコエイリアン】  
H21度文化祭知事賞(金賞)受賞作品

ほくは、はじめて文化さいにいきました。文化さいに出した、『タコエイリアン』というこうさくが、ちじしょうの金しょうをもらいました。しょうじょうをもらうときすごくきんちょうしました。でも、すごくうれしかったです。みんなにすごいねえといわれました。ほかの人の出しものもたくさん見てすごかったです。小学1年 K・S

## 建設

園長 田村匡彦

創設百周年を迎えようとする本園が、現在地に新築移転して満39年となります。今回行われる「平成22年改築」の事業は、初心(安全・安心・こころの豊かさ)に立ち帰ってこれからの下野三楽園を展望するものとなっています。

施設整備には見える建設と見えない建設との両面があります。そのどちらも疎かに出来ないものと言えましょう。

整備検討のスタートでは資金問題がわれわれの前に立ち塞がりました。施設としての主体的努力は赤字経営への転落回避が精一杯でありました。そうした中、国・県・宇都宮市からの理解と協力が得られる見通しが検討を後押ししてくれました。また、広く一般県民の方々からの支援があり、平成21年3月には再生下野三楽園を全面的に支援するとの日光山輪王寺の決定が伝えられてまいりました。

一隅を照らす歩みは更に更に続きます。

下野三楽園は、入所児童の安全と安心、そして心の豊かさを目指します。

# 7居室一泊旅行

ひたちなか海浜公園  
～海浜とちぎ自然の家泊  
～大洗アクアワールド

## 子ども達ははしゃぎ、大洗の海を満喫！

2月20日から、茨城県の大洗に一泊旅行へ行きました。職員2人小学生7人、全員男で元気一杯です。よく晴れた2日間でした。

初日はひたちなか市にある“ひたちなか海浜公園”に行きました。ゴールにたどり着くまで10分かかかる程の巨大迷路には子ども達が大喜び。滞在した4時間はあっという間に過ぎてしまいました。大洗の宿へと向かう道では、栃木県にはない大きな海を見ながらのドライブに子どもたちははしゃぎでした。

宿泊先の“海浜とちぎ自然の家”では、海を見渡しながらのバイキング夕食やロッジの2段ベッドで大満足の様子。2日目の朝には子ども達が自ら早起きをし、朝日を見ながらの海岸散歩をしました。

2日目には大洗アクアワールド水族館へ。ここでは大きなサメやイルカに職員も一緒になって感動していました。

みんな一緒に素敵な思い出が、またひとつ増えました。(石川直)



「海のように大きな大人になるぞ～！」



「海をながめてリッチな夕食…」

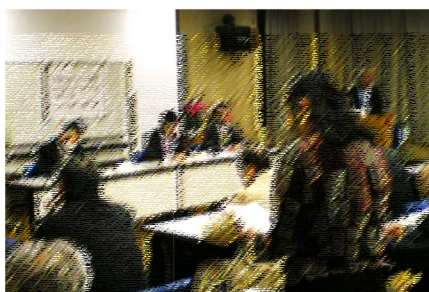


「手に吸いつくガラ・ルファに、悲鳴？歓声?!」

## 『まちづくり懇談会』で阿部会長さん発言

(2月9日 市民センター)

阿部会長：「篠井地区には社会福祉法人が運営する施設が二つあります。どちらの施設も篠井地区を愛し、ここでの暮らしを大切に、地域にとけ込んで運営されています。



懇談会で市長(中央)に発言する阿部芳枝さん

下野三楽園は先生達の懸命のご努力で運営されていますが、恵まれない児童・生徒たちが健やかに過ごせることは、とりもなおさず、篠井小学校や晃陽中学校に通学している篠井の子ども達が健やかに生活できることにつながっていきます。地区住民も努力していますが、市としてもよりいっそうの支援をお願いします。」

佐藤市長さんはこれに対し「市としても(下野三楽園)改築に補助していきたい」と答えてくれました。

阿部芳枝さんは、宇都宮市篠井地区の民生委員・児童委員協議会の会長と同地区社協会長とを兼務されています。園にも度々足を運ばれ、その慈顔に園児に限らず職員も励まされています。

## ご支援のお願い

下野三楽園では、平成22年度に老朽化、耐震化対策の為、全面的な改築を行うこととしています。児童処遇の見直しや改善の他、児童による地域社会への奉仕活動にも取り組んでまいります。

一方で、子ども達の学習指導、交流、そして環境美化等さまざまなボランティアの協力を求めています。皆様のご協力やお知り合いの方々のご紹介等いただけましたら幸いです。

※本園へのご寄付は確定申告で「寄付控除」が受けられます

## 命

日光山輪王寺 鈴木常元

あなたの命は、ほとけ様からの預かりもの。ほとけ様からお預かりして、いずれはほとけ様にお返しするもの。ほかの人の命も同じ。ほかの生き物の命も同じ。ほとけ様からの預かりもの。だから、みんな、いつか、ほとけ様のもとに帰ります。この世の中に自分一人だけ。自分の命はひとつだけ。たったひとつだけのあなたの命。どうか大切に。でも、あなたの命はあなたの所有物ではない。ほとけ様からの預かりもの。  
世界は命であふれています。大切な大切な、かけがえない命で満ちあふれています。その全部がほとけ様からの預かりもの。必ずほとけ様のもとへ帰ります。世界には六十七億の人が暮らしています。どれもみな大切な、たったひとつの命です。あなたの命は六十七億分の一ではない。たったひとつだけの命が六十七億あるのです。

旅立ちの春。いかに荒波にもまれようと、乗り越える強さを持ち続けてほしい。園を巣立つ子ども達に頑張れとエールを送ります。(Y)



発行元：  
社会福祉法人 下野三楽園

〒321-2105 栃木県宇都宮市下小池町 194 番地  
Tel:028-669-2131 Fax:028-669-2241  
E-mail: shimotsuke-sanrakuen@nifty.com